

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)
ET14E001	教育課題実践演習(Practical Seminar in Problem of the Education)					共通
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	4	1	大学院教育学 研究科	通年(集 中)		氏名 三次ほか E-mail tokuji@oita-u.ac.jp 内線 7723
授業の概要	受講者それぞれが専門とする教育学の研究領域において、研究に取り組む際に必要とされる教育学研究の理論を体系的に習得し、教育現場の実践的課題にそれらを応用して、それらの課題の解決に取り組むことがねらいである。					
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
目標1	教育学研究に取り組むために必要な、各専門領域における基礎的理論を習得する。					
目標2	習得した理論をふまえ自ら研究テーマを設定して、教育学研究に取り組むために必要な研究方法を習得する。					
目標3	附属学校園などの教育現場において子どもや教員らと関わりながら、習得した理論や研究方法を現場の課題解決のために応用で					
目標4						
目標5						
目標6						
目標7						
目標8						
目標9						
目標10						
授業の内容						
1	全体ガイダンス					
2	各専門領域における基礎的理論についての講義(受講者の専門ごとに異なる)					
3	各専門領域における基礎的理論についての講義(受講者の専門ごとに異なる)					
4	各専門領域における基礎的理論についての講義(受講者の専門ごとに異なる)					
5	各専門領域における基礎的理論についての講義(受講者の専門ごとに異なる)					
6	研究テーマの設定、および、具体的な研究方法についての検討					
7	研究テーマの設定、および、具体的な研究方法についての検討					
8	研究テーマの設定、および、具体的な研究方法についての検討					
9	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
10	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
11	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
12	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
13	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
14	途中経過のまとめ(発表準備)					
15	研究の途中経過を発表					
16	研究テーマの修正、および、具体的な研究方法についての検討					
17	研究テーマの修正、および、具体的な研究方法についての検討					
18	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
19	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
20	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
21	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
22	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
23	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
24	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
25	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
26	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
27	附属学校の授業を見学したり、附属学校の教員と意見交換をしたりしながら、それぞれの研究課題を追究する(必要に応じて、大学の教員とも研究の途中経過に対					
28	研究のまとめ(発表準備)					
29	研究のまとめ(発表準備)					
30	研究結果の発表					
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認	発表, 現地実習(学校)				工夫 その他
	B:意見の表現・交換					
	C:応用志向					
	D:知識の活用・創造					
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	研究手法の調査(20h)				
	事後 学修	研究課題の追究(60h), 発表準備(10h)				
教科書	特に指定しない					
参考書	指導教員より必要に応じて指示がある					

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	発表（中間・最終）		40%									
課題への取組		60%										
注意事項	附属学校園などの教育現場において子どもや教員との関わりがある。責任をもって取り組むこと。											
備考	学生の指導教員が主たる授業担当者となる。発表会などについては専攻全体で実施する予定である。担当者による打ち合わせ会議における協議後、具体的な実施日程、方法等の指示がある。											
リンク												
	URL											